

原 著

婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

岡山醫科大學產婦人科教室

醫學士 大 原 盛 三

岡山醫學士 秋 本 運 晃

凡ソ藥物ハ其適用面及ビ用量ヲ變ズルコトニヨリテ治療上效果ニ著シキ差異ヲ來タスハ言ヲ俟タズシテ明カナリ。由來「ウロトロピン」ハ種々ナル疾病ニ對シテ效アルヲ以テ、應用ノ範圍自ラ廣大ナリ。而モ殆ド凡テ經口のニ用井、之レヲ靜脈内ニ適用シ、殊ニ濃厚液ヲ使用セシハ蓋シ稀有ニ屬ス。マイエルハ手術後ノ膀胱麻痺ニ、ブツェロハ敗血症ニコレガ濃厚液ヲ靜脈内ニ注射シ好成績ヲ擧ゲタリ。余等ハ主トシテ婦人尿道膀胱炎患者ニ對シテ該注射ノ卓效アルヲ認メ、曩ニ二三動物實驗ヲ施シ、何等恐ルベキ副作用ナキヲ認メタルヲ以テ、主トシテソノ臨牀實驗ニ就キ茲ニ報告セントス。

「ウロトロピン」靜脈内注射ニ關シテ顧慮スベキモノニアリ。コハ「ウロトロピン」即チ「ヘキサメチーレンテトラ

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

大原、秋本一婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價值ニ就テ

三七八

ミン」ハ容易ニ「フォルムアルデヒド」及ビ「アンモニアック」ニ分解セラル故ニ「ウロトロピン」溶液ヲ靜脈内注射用ニ適セシメントシテ行フ消毒操作ノ爲メニ容易ニ分解シ該溶液中ニ「フォルマリン」ヲ多量含有スルコトツノ一ニシテ他ハ該濃厚溶液ハ多少血液凝固性ヲ有スルコトナリ故ニ余等ハコレ等缺點ヲ除去セントシ一定量濃厚液ヲ消毒スルニ特種ノ方法ニ據リ次デ硫酸「マグネシウム」ヲ添加スルコトニ依リテ靜脈内注射ニ適スルモノヲ得之レヲ假ニ「ウロネシン」ト命名シ動物、臨牀兩實驗ニ用キタリ。

「ウロトロピン」ハ之レヲ經口的ニ用井ルモ數時間ニシテ種々ナル體液、分泌液、排泄物中ニ證明セラル殊ニ尿中ニ出デタルモノハ酸性反應ノ爲メニ生ズル「フォルムアルデヒド」ニヨリテ著シク殺菌作用ヲ發揮ス然レトモ中性液ニ於テ極メテ徐々ニ「フォルムデヒド」ヲ「アルカリ」性ニ於テ全ク分解セラル、事ナキガ故ニ生體組織液ニテ「フォルムアルデヒド」ヲ出スコト不可能ナルガ如シ。最近若原氏ハ「ウロトロピン」ノ摘出臟器ニ對スル作用ヲ研究シ、該作用ハ非「アルカリ」性營養液内ニ於テ徐々ニ分解セル「アンモニア」ノ作用ナルヲ唱へ、「アルカリ」性營養液ニテソノ作用ヲ表サズト。又「ウロトロピン」ガ種々傳染性疾患ニ有效ナルハ、單ニ「ウロトロピン」自己ノ殺菌作用ニ依ルトセルモノ少ナカラズ。元ヨリ靜脈内注射液内ニ「フォルマリン」ノ含有セラル、ハ臨牀上顧慮スベキコトト同時ニ初メヨリ分解セル「ウロトロピン」ハソノ固有作用減弱セルコト明カナリ

動物實驗

一、一般現象ニ及ボス作用

數日間飼養セル數匹ノ家兔ヲ用井今製セル「ウロネシン」ヲ家兔體重一疳ニ對シ漸次增量シテ八疳ニ至ルマデ靜脈内注射ヲ行フモ動物ニ著シキ變化ヲ表ハスコトナシ。茲ニ體重一疳ニ對シ八疳ヲ注射スルヤ動物ハ沈靜トナリ、腹部ヲ床上ニ伏セ呼吸稍々不規則ナルガ如ク、試ニ動物ヲ後ヨリ追フモ逃竄セズ注射後三十分ニシテ蹣跚歩行ス、二時間ヲ經テ健康家兔ノ如ク活潑ナル運動ヲ見ル。尙ホ增量スルニ當リテ健康狀態ニ回復スルニ長時間ヲ要ス。今體

重一^社 一^社ニ對シ一五・〇^〇 耗ヲ注射スルニ初メ沈靜トナリ後回復シ僅カニ歩行ヲ營ム狀態トナリ其後四時間ニシテ動物ハ斃ル。家兎實驗成績ヲ以テ假ニ人間ニ適用ストセバ健康者體重五〇・〇^〇 珣アルモノニ對シ「ウロネシン」四〇〇・〇^〇 耗ノ靜脈内注射ニヨリテモ尙ホ死ヲ致サルニ爾シ

二、 血壓ニ及ボス作用

豫メ「プロバリシ」ヲ體重一珣ニ對シ〇・八瓦ヲ與ヘタル家兎ノ頸動脈ニ硝子性「カニウレ」ヲ插入シ、コレヲ既ニ裝置セル水銀「マノメーター」ニ連續シ血壓異動ヲ水銀柱昇降ニヨリ驗シコレヲ「キモグラフ井オン」上ノ煤紙ニ曲線トシテ畫カシメタルモノニ就キ考察スルニ。家兎體重一珣ニ對シ「ウロネシン」二・〇^〇 耗ヲ耳殼靜脈ニ注入セシムルニ血壓竝ニ脈波ニ變化ナシ漸次増量シテ三・〇^〇—五・〇^〇 耗ニ及ブモ殆ンド及ボスベキ作用ヲ認メズ。八・〇^〇 耗ニ及ベバ一分間ニ互リ僅カノ血壓下降ヲ見ルモ直チニ回復シ常壓ヲ保ツ。要スルニ血壓ニ對シテ吾人が臨牀上ニ用井ントスル數十倍量ヲ家兎ニ用フモル影響カシ。

三、 腎臟ニ及ボス作用

「ウロトロピン」ノ大量使用ハ腎臟障礙ヲ來タスベキハ成書ニ見ル所ナリ。故ニ「ウロネシン」ヲ用フルニ當リテ此點ニ就キ最モ留意セザルベカラズ。

先ツ家兎ヲ使用シ「ウロネシン」注射後ニ於ケル腎臟機能試驗ヲ行ヒ、ソノ障礙有無ヲ檢セリ。實驗方法トシ松岡博士ノ可溶性澱粉試驗法ヲ踏習セリ該試驗ニ據レバ健全ナル腎臟ヲ有セルモノハ尿中澱粉ノ排泄ハ一定時間ニ行ハル。若シ機能障害セラル、ヤ排泄不完全トナリ甚ダシキ場合ニ於テ全ク排泄ヲ見ズ。故ニ實驗ニ當リ一回量如何ナル藥量ニテ初メテ腎臟機能障礙ヲ來タスヤ。次ニ腎臟機能障礙ヲ見ザル量ノ連日使用後ニ於ケル機能檢査成績如何ヲ知ルニアリ。

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピシ」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

對照試驗

第一例 健康家兔

表中(+)ハ「ルゴール」氏液ヲ以テ尿ノ青色反應ヲ呈スルゴトヲ示ス(±)ハ不明(一)ハ全ク反應ヲ呈セザルモノ以下之レヲ準ズ

體重 一・四〇〇尙

檢尿 病變ナシ

五%澱粉糊七・〇珪耳殼靜脈内ニ注射

澱粉注射後時間 五分 「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應

一〇分	(+)
一五分	(+)
二〇分	(+)
二五分	(+)
三〇分	(+)
三五分	(+)
四〇分	(+)

(+) (+) (+) (+) (+) (+) (+) (±)
(+) (+) (+)

第二例

體重 二・二〇〇尙
檢尿 病變ナシ

五%澱粉糊一・一珪耳殼靜脈注射

澱粉注射後時間 五分 「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應

一〇分	(+)
一五分	(+)
二〇分	(+)
二五分	(+)
三〇分	(+)
三五分	(+)
四〇分	(+)
四五分	(+)
五〇分	(+)

(-) (±) (+) (+) (+) (+) (+) (+) (+) (±)
(+) (+) (+) (+)

本實驗成績ハ松岡氏實驗對照例ト相一致ス。

一回注射後ニ於ケル腎臟機能試驗

次ニ示ス實驗例ニ於テハ澱粉注射前二十分乃至一時間ニ一定量ノ「ウロネシン」ヲ靜脈内ニ注射セルモノナリ

第一例 健康家兔 體重 二・〇〇〇斤

「ウロネシン」ヲ體重一疋ニ對シ一・〇ㇰヲ耳殼靜脈ニ注射ス

檢尿 病變ナシ

五% 澱粉糊一〇・〇ㇰ注射

澱粉注射後時間 五分 「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應

一〇分

一五分

二〇分

二五分

三〇分

三五分

四〇分

四五分

五〇分

(-)(-)(±)(+)(+)(+)(+)(+)(+)(-)
(+)(+)(+)

第二例 健康家兔 體重 一・四〇〇斤

「ウロネシン」ヲ體重一疋ニ對シ一・〇ㇰヲ耳殼靜脈ニ注射ス

檢尿 病變ナシ

五% 澱粉糊七・〇ㇰ注射

澱粉注射後時間 五分 「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應

一〇分

一五分

(+)(+)(+)
(+)

第三例 健康家兔 體重 二・二五〇斤

「ウロネシン」ヲ體重一疋ニ對シ二・〇ㇰヲ耳殼靜脈内注射

檢尿 病變ナシ

五% 澱粉糊一二・〇ㇰ注射

澱粉注射後時間 五分 「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應

一〇分

一五分

二〇分

二五分

三〇分

三五分

四〇分

四五分

五〇分

(-)(-)(±)(+)(+)(+)(+)(+)(-)(-)
(+)(+)

(-)(±)(+)(+)(+)(+)(+)(+)
(+)

大原、秋本―婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

三八二

第四例 健康家兔 體重 二・三〇〇疋

「ウロネシン」ヲ體重一疋ニ對シ二・〇〇疋耳殼靜脈内ニ注射ス

檢尿 病變ナシ

五%澱粉糊一二・〇疋注射

澱粉糊注射後時間 五分 「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應

- 一〇分 (-)
- 一五分 (-)
- 二〇分 (+)
- 二五分 (+)
- 三〇分 (+)
- 三五分 (+)
- 四〇分 (+)
- 四五分 (+)
- 五〇分 (+)

第五例 健康家兔 體重 一・三〇〇疋

「ウロネシン」ヲ體重一疋ニ對シ三・〇〇疋耳殼靜脈内ニ注射

檢尿 變化ナシ

五%澱粉糊七・五疋注射

澱粉注射後時間 五分 「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應

- 一〇分 (-)
- 一五分 (+)
- 二〇分 (+)
- 二五分 (+)
- 三〇分 (+)
- 三五分 (+)
- 四〇分 (+)
- 四五分 (+)
- 五〇分 (+)

番 號	対照例	家兔體重 (疋)	檢 尿	家兔體重1疋ニ對シ注射量	澱粉注射後時間	澱粉注射後時間	反應時間
1	2	1,400	變化ナシ	0	5分	5分	40分
2		2,000	變化ナシ	1.0疋	5分	10分	35分
3		1,400	變化ナシ	1.0疋	5分	5分	40分
4		2,250	變化ナシ	2.0疋	15分	15分	30分
5		2,300	變化ナシ	2.0疋	15分	15分	45分
		1,300	變化ナシ	3.0疋	10分	10分	15分

注射後尿中ニ澱粉ノ表ハル、時間ハ番號(3)(4)例ニ於テハ對照例ヨリモ少シク遲延セルモ松岡氏ノ說明ニ據リ五十分間ハ生理的境界トセラル又(5)ヲ除キテ尿中ノ沃度反應表現時間ノ對照例ト著シキ差異ナキヲ以テ紋上ノ實驗成績ニヨリ(5)ヲ除キ腎臟機能ニ何等障害ナキヲ知ル。(5)例ニ於ケル如ク家兔體重一疳ニ對シ「ウロネシン」三・〇疳注射ニヨリ澱粉ノ排泄防グラレ沃度反時間一五十分間ニ減少セルヲ以テ明カニ腎臟機能障碍アルヲ認ム。通常人體ニ於テ體重一疳ニ對シ「ウロネシン」〇・一内外ノ注射ニヨリテ腎臟機能障碍ヲ憂ユルヲ要セザルベシ

○ 數回注射後ニ於ケル腎臟機能試驗

更ニ「ウロネシン」ノ連日注射ニ於テ同様實驗ヲナシ次ギノ結果ヲ得タリ。即チ健康家兔ニ連日一日一回「ウロネシン」ノ一定量ヲ耳殼靜脈内ニ注射シ適當ノ時日後腎臟機能試驗ヲ行ヒタリ

第一例 健康家兔 體重 二・二二〇疳

重體一疳ニ對シ「ウロネシン」一・〇疳耳殼靜脈内注射

注射回数 六回(一日一回注射)

檢尿 病變ナシ

五%澱粉糊 一・〇疳注射

澱粉注射後時間 五分 「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應

- 一〇分 (+)
 - 一五分 (+)
 - 二〇分 (+)
 - 二五分 (+)
 - 三〇分 (+)
 - 三五分 (+)
- (+) (+) (+) (+) (+) (-)
(+) (+) (+)

第二例 健康家兔 體重 二・二五〇疳

體重一疳ニ對シ「ウロネシン」一・〇疳耳殼靜脈内注射

注射回数 九回(但一日一回注射)

檢尿 病變ナシ

五%澱粉糊 一・二〇疳注射

澱粉糊注射後時間 五分 「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應

- 一〇分 (+)
 - 一五分 (+)
 - 二〇分 (+)
- (+) (+) (+) (-)
(+) (+)

(-) (-) (±)

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注ノ臨牀的價値ニ就テ

三八四

二五分
三〇分
三五分
四〇分
四五分
(-)(-)(±)(+)(+)

第三例 健康家兎 體重 二・二〇〇斤

體重一疋ニ對シ「ウロネシン」二・〇瓊ヲ耳殼靜脈内注射
注射回数 三回(但シ一日一回注射)

檢尿 病變ナシ

五%澱粉糊一・一〇瓊注射

澱粉注射後時間 五分 「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應

一〇分
一五分
二〇分
二五分
三〇分
三五分
四〇分
(+)(+)(+)(+)(+)(±)(-)

第四例 健康家兎 體重 二・一〇〇斤

體重一疋ニ對シ「ウロネシン」二・瓊ヲ耳殼靜脈内注射
注射回数 八回(但一日一回注射)

檢尿 病變ナシ

五%澱粉糊一・〇〇瓊注射

澱粉注射後時間 五分 「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應

一〇分
二五分
三〇分
三五分
四〇分
四五分
五〇分
(-)(±)(+)(+)(+)(+)(±)(-)

今表ヲ以テ表セズ

番號	家兎 體重 (斤)	體重一疋ニ對シ「ウロネシン」注射量	注射回数	澱粉注射後「ルゴール」氏液反應ノ出ヅル時間	「ルゴール」氏液ヲ以テセル反應ノ時間
1	2.220	1.0瓊	6	5分	35分

2	2,250	1,015	9	5分	30分
3	2,200	2,015	3	5分	40分
4	2,100	2,015	8	5分	35分

連日注射ヲ繰返スモ體重一疔ニ對シ一〇—二〇疔ハ家兎ノ腎臟機能ニ大ナル影響ヲ與ヘザルコト明カナリ。
要スルニ一回量ニ於テ腎臟機能障礙ヲ來サザル量ニ於テ毎日一回宛數回繰返スモ腎臟機能障礙ヲ見ズ

臨床實驗

吾人ノ實驗例ハ次ノ如シ。而シテ吾人ノ使用セシ方法ハ「ウロネシン」五〇疔ヲ毎日或ハ隔日ニ一回宛靜脈内ニ注射ス。尙ホ此ノ間他ノ藥物ヲ與ヘズ專「ウロネシン」ノ作用ヲ觀察シ且ツ副作用ノ有無ニ付キ嚴密ナル注意ヲ拂ヘ

第一例 大〇ヒ〇 二十九歳 農業 未産婦

既往症 本年五月二十三日子宮後轉症ニテ當科ニテ内臟搔爬術、癒着剝離、アレキサンダー・アダムス氏手術ヲナス。同月二十五日尿路障礙ヲ訴フ。

主 訴 尿意頻數ヲ訴ヘ約三十分毎ニ少量宛放尿ス、放尿時竝ニ放尿後輕度ノ疼痛及灼熱ノ感ヲ訴フ。

現 症 體格、營養可良、體溫三十八度、尿道ニ壓痛アリ而シテ膿汁ノ排泄ナシ、外尿道口ハ稀々發赤腫脹ス、尙ホ膀胱部ニ輕度ノ壓痛アリ。

檢尿所見 弱酸性ニシテ僅ニ濁濁シ黃色ヲ呈ス、蛋白ハ極メテ僅ニ證明シ

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

得、沈澱物ヲ鏡檢スルニ一視野ニ膿球五、六個ヲ見ル、膀胱上皮ハ少シ。

經 過 他ノ藥物ヲ投與セズシテ「ウロネシン」ノミヲ注射シ經過ヲ觀察

ス、二十六日及ビ二十八日ニ各一回(五〇cc)靜脈内注射ヲナス、二十九日體溫三十七度ニ下降シ、尿意頻數、放尿後ノ疼痛等ノ自覺的障礙輕快シ放尿ハ二時間ニ一回位トナル、其後四回注射ス、即チ前後六回ノ注射後尿ヲ檢スルニ黃色ナルモ濁濁ナク清澄ニシテ沈澱物ヲ鏡檢スルニ膿球其他上皮ヲ認メズ、

注射回數 六回 全治ニ至ル日數 十三日

第二例 大〇ダ〇 三十六歳 商業 經産婦

三八五

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

既往症 本年五月二十三日惡性脈絡膜炎ニテ當科ニ於テ子宮全剔出術ヲナス。五月二十七日放尿時竝ニ放尿後輕度ノ疼痛及尿意頻數ヲ訴フ。

主 訴 約三十分毎ニ放尿ス。放尿後疼痛竝ニ灼熱ノ感ヲ訴フ。

現 症 體格中等、尿道ニ輕度ノ壓痛アリ併シ膿汁排泄ナシ、膀胱部ニ壓痛アリ。

檢尿所見 酸性ニシテ濁濁強ク黃赤色ヲ呈ス、蛋白微量ニアリ、鏡檢スルニ多數ノ膿球膀胱上皮及赤血球ヲ見ル。

經 過 他ノ藥物ヲ投與セズ「ウロネシン」ノミヲ靜脈内ニ注射ス、五月二十七日及ビ九日各一回宛注射セシニ自覺的症狀變化少シ、三十一日更ニ一回注射スルコトニヨリ尿意頻數疼痛輕快ス、猶ホ二回注射後即チ六月四日檢尿スルニ濁濁ナク鏡檢スルモ膿球其他血球ヲ認メズ。

注射回数 五回 全治ニ至ル日數 九日

第三例 高〇フ〇 二十三歳 髮結業 未産婦

既往症 六月三日當科ヲ訪フ、當時二十日前ヨリ尿意頻數、放尿後ノ疼痛ヲ訴フ、依リテ「ウロトロピン」一・五瓦テ七%ノ「ウソウルシ」葉煎一〇〇・〇㏄中ニ混和シ二週間與フ、然レ共症狀輕快セザルヲ以テ十六日「ウロネシン」ノ靜脈内注射ヲ試シ同時ニ内服藥ヲ停止ス。

主 訴 約三十分毎ニ少量宛放尿ス、放尿後疼痛甚シ。

現 症 體格營養可良、尿道ニ壓痛アリ灰白色ノ膿汁ヲ壓出ス、外尿道

口ハ稍々發赤腫脹ス、膀胱部ニ壓痛アリ。

檢尿所見 酸性ニシテ濁濁強シ、蛋白微量、尿沈澱物ヲ鏡檢スルニ非常ニ多數ノ膿球ヲ見ル尙ホ膀胱上皮ヲ證明シ得。

經 過 「ウロネシン」靜脈内注射二回ニヨリ即チ初メノ注射ヨリ五日ノ後尿意頻數放尿時竝ニ放尿後ノ疼痛止ミ自覺的ニハ治癒セシガ如シ、而シテ尙ホ一回ノ注射後即チ最初ノ注射ヨリ八日ノ後檢尿スルニ尿ハ清澄ニシテ鏡檢スルニ異常ナシ、全注射三回ナリ。

注射回数 三回 全治ニ至ル日數 八日

第四例 太〇マ〇 四十二歳 農業 經産婦

既往症 二十日前ヨリ尿路ノ障碍ヲ訴ヘ某醫師ノ治療ヲ受ケシモ輕快セズ。

主 訴 放尿晝間ハ約一時間毎ニシテ夜間就眠後ハ二三回放尿ス、放尿後疼痛灼熱ノ感アリ。

現 症 體格營養可良、尿道ニ壓痛アリ、外尿道口ハ發赤腫脹ス、膀胱部ニ壓痛アリ。

檢尿所見 弱酸性ニシテ濁濁強カラズ、沈澱物ヲ鏡檢スルニ膿球中等度ニ多數アリ又膀胱上皮モアリ。

經 過 六月二日第一回注射ヲナス其翌日患者來ラズ、四日自覺的症狀殊ニ尿意頻數輕減ス、同日第二回注射ヲナス、六日ニ患者來リ自覺的ニハ全治セルガ如シト云フ、同日檢尿スルニ尿清澄ニシテ鏡檢スルニ異常ナシ。

注射回数 二回 全治ニ至ル日数 四日

第五例 西〇次〇 二十三歳 娼妓 未産婦

既往症 三年前淋疾ニ罹リシコトアリ、三箇月前ヨリ尿意頻數放尿時ノ

疼痛ヲ訴フ、今日マテ二三醫師ノ治療ヲ受ケシモ輕快セズ、却テ増悪スルガ如シ、近時ハ五分毎ニ尿意ヲ催ス一晝夜ノ放尿回數四十五回乃至六十回ナリ、放尿後激痛ヲ訴ヘ、夜間熟睡出來ズ。

主 訴 尿意頻數、放尿後ノ激痛。

現 症 體格營養共ニ可良、尿道ハ柔條物トシテ鉛筆位ノ太サニ觸ル、

激痛アリ、灰黄色ノ分泌物ヲ排泄ス、膀胱部ニ甚シキ壓痛アリ。

檢尿所見

強「アルカリ」性ニシテ黄褐色ヲ呈ス、蛋白ハエスバツハ氏試驗管ニテ一・五%ヲ算ス、鏡檢スルニ膿球非常ニ多數ニシテ又膀胱上皮モ頗多シ、赤血球モ證明シ得。一回ノ放尿量ハ十乃至三十坵ナリ、一晝夜ノ全尿量ハ五五〇坵ナリ。

經 過 五月十五日入院ス、同日ヨリ毎日一回「ウロネシン」ノ靜脈注射

ヲナス、毎日尿量ヲ檢スルニ殆百坵宛増量シ第五回ノ注射後ハ尿量九百坵ニ至ル、エスバツハ氏試驗管ニテ毎日蛋白ヲ檢スルモ増加セズ、放尿回数ハ一晝夜三十回ニ減ズ、併シ疼痛ハ僅ニ輕減セシノミナリ、勿論此間他ノ藥物ヲ與ヘズ、本患者ハ事柄

ニヨリ一週間ニシテ退院シ爾後ノ經過ヲ觀察シ得ザリシハ遺憾トス。

大原、秋本―婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

三八七

第六例 中〇勝〇 二十五歳 商業 經産婦

既往症 六日前ヨリ尿意頻數ヲ訴ヘ、晝間ハ殆五分毎ニ夜間四、五回放

尿ス、放尿後並ニ放尿時ニ激痛灼熱ノ感ヲ訴フ。

主 訴 尿意頻數、放尿時並ニ放尿後ノ疼痛。

現 症 體格營養中等、尿道ハ腫脹シ壓痛アリ、尿道口ハ發赤腫脹ス、

尿道ヲ壓スルニ灰白色ノ分泌物ヲ見ル

檢尿所見

尿ハ黄褐色ニシテ稠濁強シ、蛋白殆ナシ、酸性ヲ呈ス。沈澱物ヲ鏡檢スルニ膿球及膀胱上皮多シ、又赤血球アリ。

經 過 五月二十四日第一回「ウロネシン」注射ヲナス、爾後毎日一回宛

注射ス、二十八日即第五回注射ニヨリ晝間ハ二時間乃至三時間

ニ一回放尿ス、夜間尿意ヲ催スルコトナク疼痛大イニ輕減スル

モ三十一日マテニ尙ホ三回注射ス、檢尿スルニ清澄ニシテ鏡檢

上異常ナシ。

注射回数 八回 全治ニ至ル日数 八日

第七例 森〇ヨ〇 二十一歳 醫師妻 未産婦

既往症 一年半程前ヨリ輕度ノ放尿後疼痛アリ、近時症状増悪シ放尿回

數一日十二三回ヲ算ス。

主 訴 尿意頻數、放尿後疼痛。

現 症 體格營養中等、尿道ヲ壓スルニ疼痛アリ然レ共膿汁分泌ナシ、

膀胱部ニ輕度ノ壓痛アリ。

檢尿所見 弱酸性ニシテ稠濁強カラズ、蛋白ナシ、沈澱物ヲ鏡檢スルニ膿

球中等度ニ多數ニシテ膀胱上皮少數ナリ。

大原、秋本一婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロヒン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

三八八

經 過 五月十五日「ウロネシン」第一回注射チナス、爾後隔日ニ注射ス、

第二回注射ニヨリ放尿回数ハ一日七八回ニ減ズ、第三回注射ニヨリ放尿時ノ疼痛消失ス、第四回注射後檢尿スルニ尿ハ清澄ニシテ鏡檢スルニ異常ナシ。

注射回数 四回 全治ニ至ル日數 八日

第八例 林○子 四十一歳 商業 未産婦

既往症 一年前淋疾ニ罹リシコトアリ、三月二十三日尿路ノ障礙ヲ訴フ。

即チ殆ド一時間毎ニ尿意ヲ催シ放尿後疼痛ヲ訴フ。

主 訴 尿意頻數、放尿後ノ疼痛

現 症 體格營養中等、外尿道口ハ輕度ノ發赤腫脹アリ、尿道壓痛アルモ膿汁分泌ナシ。膀胱部ニ輕度ノ壓痛アリ。

檢尿所見 酸性ニシテ黃色ヲ呈シ僅ニ濁濁ス、蛋白ナシ、沈澱物ヲ鏡檢スルニ膿球多數ニアリ。

經 過 三月二十三日及ヒ二十七日ニ各一回宛「ウロネシン」ヲ注射スル

コトニヨリ一旦自覺的症狀輕快シ患者通院ヲ止メシガ、四月十九日前記同様ノ症狀ヲ訴ヘ來ル、同日ヨリ五月十二日マテニ八回ノ注射チナシ尿ハ清澄トナリ鏡檢上又異常ヲ認メズ。

注射回数 八回 全治ニ至ル日數 二十四日

第九例 若○タ○ 四十五歳 商業 經産婦

既往症 三年前膀胱炎ニ罹リシコトアリ、二十日前ヨリ一晝夜二十五六回尿意ヲ催シ放尿後甚シキ疼痛ヲ訴フ。

同尿意ヲ催シ放尿後甚シキ疼痛ヲ訴フ。

主 訴 尿意頻數、放尿後ノ疼痛。

現 症 體格營養可良尿道ハ肥厚シ索條物トシテ觸ル、壓痛アリ、膀胱部ニ稍々強度ノ壓痛アリ。

檢尿所見 尿ハ酸性ニシテ黃色ヲ呈シ濁濁ス、蛋白ハ僅微ナリ、沈澱物ヲ鏡檢スルニ膿球其他膀胱上皮多數アリ。

經 過 六月二十五日及ヒ二十七日ニ各一回宛注射スルコトニヨリ放尿回数ハ一晝夜五回トナリ且ツ放尿後ノ疼痛止マ。

注射回数 二回 自覺症狀消失日數 四日

第十例 林○ミ 四十五歳 商業 經産婦

既往症 五年前ヨリ尿路ノ障礙ヲ訴ヘ所々ノ病院或ハ醫師ノ治療ヲ受ケ

シモ輕快セズ、放尿殆一時間毎ニアリ又放尿後ハ疼痛甚シ。

主 訴 放尿後ノ疼痛、尿意頻數。

現 症 體格營養可良、尿道ハ肥厚甚シク索條物トシテ觸ル又壓痛甚シ、灰白色膿汁ヲ排泄ス。

檢尿所見 酸性黃褐色ニシテ濁濁強シ、微量ノ蛋白アリ、膿球多シ。

經 過 六月十七日第一回注射チナス、翌日却テ症狀増悪セシガ如キ感アリシモ尙ホ毎日注射ヲ繼續シ、七回注射後症狀餘程輕快三時

間ニ一回位放尿スルニ至ル又疼痛モ殆消失ス、爾後三日ニ一回位注射ス七月八日檢尿スルニ尿ハ清澄ニシテ異常ナク鏡檢スルニ膿球ナシ。

注射回数 十一回 自覺症狀消退日數 七日

第十一例 山○豊○ 二十一歳 商業 未産婦

既往症 五月二十二日當科ニ於テ子宮位置矯正術チナス、六月十九日尿

意頻數、放尿後ノ疼痛。

路ノ障礙ヲ訴フ。

主 訴 尿意頻數、放尿後ノ疼痛。

現 症 體格營養可良、尿道並ニ膀胱部ニ輕度ノ壓痛アリ。

檢尿所見 弱酸性黃色濁濁強シ、蛋白ナシ、尿沈澱物ヲ鏡檢スルニ膿球非常ニ多シ膀胱上皮少シ。

經 過 六月十九日ヨリ毎日一回宛三回注射スルコトニヨリ自覺的症狀消退ス。

注射回數 三回 自覺的症狀消退日數 四日

第十二例 森〇ヨノ 二十九歳 無職 未産婦

既往症 五月初メ頃ヨリ尿路障礙ヲ訴ヘ同月二十八日當科ニ來ル。

主 訴 約一時間毎ニ尿意ヲ催シ放尿後ハ疼痛甚シ。

現 症 體格營養可良、尿道及ビ膀胱部ニ壓痛アリ尿道ヨリ膿汁排泄ナシ。

檢尿所見 弱酸性黃色濁濁強シ、蛋白ナシ、膿球並ニ上皮非常ニ多シ。

經 過 種々ノ藥物ヲ投與セシモ輕快セズ、六月二十三日「ウロネシン」ヲ注射シ同時ニ内服藥ヲ止ム、注射ト共ニ漸次輕快シツ、アリ

シモ第四回注射後放尿回數並ニ疼痛却テ増悪セリ而シテ其前日患者ハ稍過激ナル運動ヲナセリト云フ其後四回ノ注射ニヨリ殆

ト障礙ナキニ至ル、更ニ二回ノ注射後檢尿スルニ清澄ニシテ鏡檢上モ亦異常ナシ。

注射回數 八回 全治ニ至ル日數 二十一日

大原、秋本一婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

第十三例 大〇次〇 二十六歳 無職 未産婦

既往症 六月十二日一週間前ヨリ尿路障礙アルヲ以テ當科ニ來ル。

主 訴 約二時間毎ニ放尿シ放尿後ハ稍々激シキ疼痛ヲ訴フ。

現 症 尿道肥厚シ壓痛アリ、膀胱部ニモ亦壓痛アリ。

檢尿所見 酸性黃色殆透明ニ近シ、蛋白ナシ、鏡檢スルニ膀胱上皮ノミ見ユ。

經 過 「ウロネシン」ヲ三回注射セシニ放尿回數頻數トナリ自覺的症狀増悪セシヲ以テ注射ヲ中止ス。

第十四例 行〇滋〇 二十四歳 農業 未産婦

既往症 二十日前ヨリ一晝夜約二十四回ノ放尿アリ、放尿後疼痛ハ少シ

主 訴 尿意頻數。

現 症 尿道肥厚シ壓痛アリ、膀胱部ニモ亦壓痛アリ、尿道ヨリ膿汁排泄ヲ認メズ。

檢尿所見 尿ハ酸性ニシテ濁濁シ赤褐色ヲ呈ス、膿球多シ又赤血球ヲ見ル。

經 過 「ウロネシン」注射ト共ニ漸次輕快シ第四回注射ニヨリ殆ト常態トナル、更ニ四回注射ス。

注射回數 八回 全治ニ至ル日數 十日

第十五例 坪〇ツ〇 四十三歳 無職 經産婦

既往症 二週間前ヨリ尿路ノ障礙ヲ訴ヘ六月二十日當科ヲ訪フ。

主 訴 殆ト一時間毎ニ尿意ヲ催シ放尿後ハ疼痛甚シ。

現 症 尿道ハ稍々肥厚シ膀胱部ト共ニ壓痛アリ。指壓ニヨリ尿道口ヨ

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

三九〇

主 訴 放尿後ノ疼痛。

尿道膀胱部共ニ壓痛アリ、尿道ハ稍々腫脹セリ、指壓ニヨリ灰

球上皮膚非常ニ多シ。

經 過 六月二十日第一回「ウロネシン」注射チナス、勿論前例同様他ノ

藥物ヲ與ヘズ、第四回ノ注射後自覺的症狀輕快ス、爾後三回ノ

注射チナシ七月十日檢尿セシニ異常ヲ認メズ。

注射回数 七回 全治ニ至ル日數 二十一日

第十六例 兒〇絹〇 三十六歳 官吏妻 經産婦

既往症 三十日前ヨリ尿路ノ障碍ヲ起ス一晝夜放尿回数五六回ナルモ放

尿後疼痛激シ。

注射回数 六回 自覺的症狀消退日數 十二日

以上十六例凡テ糖及ビ「インヂカン」反應陰性ナリシヲ以テ記載セズ。

以上ヲ表示セバ次ノ如シ。

姓名	年齢	職業	産婦	營養	放尿回数	疼痛	注射前檢尿所見				注射初日ヨリ全治或ハ自覺的症狀消退スル日數	注射初日ヨリ全治或ハ自覺的症狀消退スル日數			
							反應	尿色	蛋白	糖			インヂカン反應	潤濁	細胞
大〇ヒ〇	二九	農	未	可良	三十分毎	放尿後輕度ノ疼痛	弱酸性	黄	痕跡	—	—	弱シ	膿球多シ	全・一三	六
大〇ダ〇	三六	商	經	中等	三十分毎	放尿後輕度ノ疼痛	酸性	黄赤	微量	—	—	強シ	膿球上皮膚赤血球アリ	全・九	五
高〇フ〇	二三	髮結	未	可良	三十分毎	放尿後甚シ	酸性	黄	微量	—	—	強シ	膿球膀胱上皮多數	全・八	三
太〇マ〇	四二	農	經	可良	二時間毎	放尿後甚シ	中性	黄褐	—	—	—	強シ	膿球非常ニ多シ	全・四	二

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

兒○絹○	坪○ツ○	行○滋○	大○次○	森○ヨ○ノ	山○豐○	林○ミ○	若○タ○	林○子○	森○ヨ○	中○勝○	西○次○
三六	四三	二四	二六	二九	二一	四五	四五	四一	二一	二五	二三
官吏妻	無	農	無	無	商	商	商	商	醫師妻	商	娼妓
經	經	未	未	未	未	經	經	未	未	經	未
可良	可良	可良	可良	可良	可良	可良	可良	可良	中等	中等	可良
三時間毎	一時間毎	一時間毎	二時間毎	一時間毎	三時間毎	一時間毎	十一晝夜 十五回	一時間毎	二時間毎	夜五分間毎 夜四五回	約一晝夜 約五十回
放尿後	シ放尿後甚	シ放尿後甚	シ放尿後甚	シ放尿後甚	シ放尿後甚	シ放尿後甚	シ放尿後甚	シ放尿後甚	甚ニ放尿後 痛アリ	痛アリ 放尿後激	常ニ疼痛 後ニ放尿
酸性	酸性	弱酸性	酸性	弱酸性	弱酸性	酸性	酸性	酸性	弱酸性	酸性	リアルカ 性
黃褐	黃	赤褐	黃	黃	黃	黃褐	黃	黃	黃	褐	黃褐
痕跡	微量	—	—	—	—	微量	—	—	—	—	+
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
強シ	強シ	強シ	弱シ	強シ	強シ	強シ	強シ	弱シ	弱シ	強シ	甚強シ
赤血球多シ 膿球多シ	膿球上皮非 常ニ多シ	膿球多シ	膿球少シ	シ膿球並ニ上 皮非常ニ多	シ多シ上皮少	膿球多シ	膿球多シ	膿球	膿球多數勝 胱上皮少數	膿球上皮赤 血球アリ	シ膿球赤血球 膀胱上皮多
自・一二	全・二一	全・一〇	中 止	全・二一	自・四	自・七	自・四	全・二四	全・八	全・八	尿量增加
六	七	八		八	三	一一	二	八	四	八	七

大原、秋本一婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

細菌検査ヲナセシ者

尿中ノ細菌検査ヲナスニハ外陰部ニアル細菌ヲ混入セザル様嚴密ナルヲ注意ヲ要ス、而シテ余ノ採尿及ビ培養セシ方法ハ次ノ如シ。

- 一、先ツ患者ノ外陰部殊ニ尿道口ヲ消毒藥ヲ以テ充分ニ消毒シ次ニ殺菌水ヲ以テ消毒藥ヲ除去ス。
- 二、採尿者ノ手指ハ豫メフュールブリンゲル氏手指消毒法ニ從ヒテ消毒ス。
- 三、金屬或ハネラトシ尿道「カテーテル」ヲ煮沸消毒シ豫メ殺菌水中ニ貯フ。
- 四、前述セル「カテーテル」使用ニ際シテハ其尖端ニ殺菌「オレフ」油二三滴ヲ滴下シ左右ノ小陰唇ヲ開辦シ尿道外口ヲ現シ更ニ尿道口ヲ消毒シ採尿ス。
- 五、尿ハ豫メ殺菌綿栓ヲ施セル試験管ニ「カテーテル」ヨリ直接ニ採取ス。
- 六、採取セシ尿ハ直ニ普通寒天培養基ニテ平面培養ヲナス、培養基中ニ混ズル尿ハ消毒セル一定ノ注射器ヲ使用シ二滴宛滴下ス、二十四時間孵卵器中ニ入レ菌聚落ノ有無ヲ檢ス。
- 七、細菌染色ニハレフレル氏液グラム氏法チール・ガベット氏法ノ染色法ヲ施セリ。
- 八、「ウロネシン」注射前ニ於ケル菌聚落ノ情態及ビ染色標本ヲ貯藏シ數回「ウロネシン」注射ニヨリ自覺的症狀ノ全ク消失セシ後再ビ採尿シ培養検査ヲナシ前者ト比較セリ、菌聚落ヲ貯藏スルニハ「フォルマリン」ヲ以テ殺菌シ爾後細菌ノ發育スルヲ防止セリ。

第一例 青〇ト〇子 二十七歳 官吏妻 經産婦

既往症 四月二十二日放尿後ノ疼痛テ主訴ヲ以テ當科ヲ訪ヒ、二十四

日及ビ二十五日ニ各一回宛「ウロネシン」五〇㏄ヲ注射スルコトニヨリ自覺的症狀消失ス、其後子宮後轉症ニヨリ五月十六日

主

訴

アレキサnder・アダムス氏手術ヲナス、二十四日尿路障礙ヲ訴フ。

一時間毎ニ尿意ヲ催シ放尿後ハ疼痛並ニ灼熱ノ感ヲ訴フ、就眠後モ二三回放尿ス。

現 症 體格營養中等、外尿道口ハ發赤腫脹シ、壓痛甚シ、尿道ヨリ分泌物ナシ、膀胱部ニ壓痛アリ。

檢尿所見 酸性ニシテ黃色ヲ呈シ潤濁アリ、蛋白ハエスバツハ氏試驗管ニテ僅ニ沈澱ヲ見ルノミ。尿沈澱物ヲ鏡檢スルニ膿球及ビ膀胱

上皮非常ニ多シ。

培養所見 菌聚落ハ圓形ニシテ灰白色ヲ呈スル者十三箇、黃色ヲ呈スルモノ四箇ヲ得タリ。更ニ染色スルニ前者ヨリ桿菌、後者ヨリ球菌ヲ見ル。

經 過 五月二十四日及ビ二十五日ニ各一回宛「ウロネシン」ヲ注射スルコトニヨリ放尿回数ハ一晝夜四乃至五回トナル又放尿後ノ疼痛

灼熱ノ感ハ消失ス即チ自覺的ニハ全治セシガ如シ、其後注射ヲ三回ナシ初メノ注射日ヨリ十三日ノ後檢尿スルニ尿ハ清澄ニシテ鏡檢上異常ナシ又培養檢査ヲナスニ菌聚落ヲ見ズ即チ全治セシ者ナリ。

注射回数 五回 全治ニ至ル日數 十二日

第二例 大〇マ〇ノ 二十一歳 無職 未産婦

既往症 五月二十三日バルトリニ「氏膿腫」ノ切開ヲナス、二十六日尿意頻數殆ド三十分毎ニ尿意ヲ催シ且放尿後輕度ノ疼痛ヲ訴フ。

主 訴 殆ド三十分毎ニ尿意ヲ催シ放尿後輕度ノ疼痛ヲ訴フ。
現 症 體格營養中等、外尿道口ハ輕度ノ發赤腫脹アリ尿道ヲ壓スルニ疼痛ヲ訴フ然レ共膿汁ノ排泄ヲ認メズ、膀胱部ハ稍々激シキ壓痛アリ。

培養所見 菌聚落ハ黃色ヲ呈シ圓形ニシテ非常ニ多數ナリ、染色スルニ球

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

檢尿所見 酸性ニシテ黃色ヲ呈シ潤濁ス、蛋白ハエスバツハ氏試驗管ニテ

〇・五%ヲ算ス、尿沈澱物ヲ鏡檢スルニ膿球多キモ膀胱上皮ハ少シ。

培養所見 菌聚落ハ圓形ニシテ黃色ヲ呈シ二十箇ノ菌聚落ヲ得タリ、更ニ

染色スルニ球菌ノミヲ見ル。

經 過 二十六日ヨリ隔日ニ「ウロネシン」ヲ注射ス、三回注射後即チ注

射初日ヨリ七日ニシテ自覺的症狀輕快ス、尙ホ一回注射後六月三日檢尿スルニ尿ハ清澄ナリ、更ニ培養スルニ菌聚落ヲ作ラズ。

注射回数 四回 全治ニ至ル日數 九日

第三例 小〇ヨ〇エ 二十九歳 無職 未産婦

既往症 五月二十三日當科ニ於テダグドレー氏手術ヲナス二十六日ヨリ尿路ノ障礙ヲ訴フ、當時手術後臥床中ナルヲ以テ七%「ウラワルシ」葉煎百粒中ニ「ウロトロピン」一・五瓦ヲ混シ投與セリ。四日間前法ヲ與ヘシモ症狀輕快セズ。

主 訴 殆ド二時間毎ニ尿意ヲ催シ、放尿後疼痛アリ。

現 症 體格營養可良、外尿道口ハ輕度ノ發赤腫脹アリ尿道ハ腫脹甚シカラザルモ指壓ニヨリ疼痛ヲ訴フ膿汁ヲ排泄セズ、膀胱部ニ輕度ノ壓痛ヲ訴フ。

檢尿所見 酸性ニシテ黃色ヲ呈シ潤濁甚シカラズ、蛋白微量ニシテエスバツハ氏試驗管ニテ僅ニ沈澱ヲ生ズルノミ。尿沈澱物ヲ鏡檢スルニ膿球多數膀胱上皮ハ少シ。

培養所見 菌聚落ハ黃色ヲ呈シ圓形ニシテ非常ニ多數ナリ、染色スルニ球

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

三九四

菌ヲ證明ス。

經 過 前方ノ内服藥ヲ止メ、「ウロネシン」ノミヲ注射ス。二十九日ヨリ

隔日ニ注射ス而シテ第二回ノ注射ノ後自覺的症狀輕快ス、尙ホ

二回ノ注射後六月四日培養検査ヲナセシニ菌聚落全ク作ラズ。

尿ハ清澄ニシテ鏡檢スルモ異常ナシ。

注射回数 四回 全治ニ至ル日數 七日

第四例 田○春○ 四十歳 商 未産婦

既往症 五月二十六日當科ニ於テアレキサンダ・アダムス氏手術チナ

ス、約一箇月前ヨリ尿意頻數ヲ訴ヘ殆ド三十分毎ニ放尿ス而シ

テ放尿後疼痛並ニ灼熱ノ感甚シ。

主 訴 尿意頻數放尿後ノ疼痛。

現 症 體格營養中等、尿道ハ壓痛甚シク、外尿道口ハ發赤腫脹ス、指

壓ニヨリ膿汁ヲ排泄セズ、膀胱部ニ輕度ノ壓痛アリ。

檢尿所見 酸性ニシテ黄色チ呈シ濁濁強シ、蛋白ハエスバツハ氏試驗管ニ

ヨリ〇・五%ヲ算ス、尿沈澱物ヲ檢スルニ膿球非常ニ多數アリ膀胱

胞上皮モ亦多シ。

培養所見 二十六日手術時採尿培養ス、菌聚落ハ圓形ニシテ灰白色チ呈ス

ル者二十箇、黄色ナル者六箇ヲ作ル。染色鏡檢スルニ前者ヨリ

桿菌後者ヨリ球菌ヲ見ル。

經 過 五月二十六日ヨリ隔日ニ「ウロネシン」ヲ注射ス、注射二回ノ後

自覺的症狀消失ス、更ニ四回注射後即チ初メノ注射日ヨリ十三

以上五例ハ凡テ入院患者ニシテ「ウロネシン」注射中隔日ニエスバツハ氏試驗管ヲ以テ蛋白ヲ計量セシモ増加ヲ認

日ノ後採尿培養検査セシニ菌聚落ヲ作ラズ即チ尿ハ清澄ニシテ

全治セシ者ナリ。

注射回数 六回 全治ニ至ル日數 六日

第五例 森○ケ○ 二十七歳 農業 未産婦

既往症 五月三日當科ニ於テ子宮癒着剝離ノ手術チナス、五月二十日尿

路ノ障礙ヲ訴フ。

主 訴 殆ド一時間ニ一回放尿シ、放尿後疼痛ヲ訴フ。

現 症 體格營養可良、外尿道口ハ輕度ノ發赤腫脹アリ、尿道ハ輕度ノ

壓痛アリ、膿汁分泌ナシ、膀胱部ニ壓痛アリ。

檢尿所見 中性ニシテ淡黄色チ呈シ殆ド透明ナリ、蛋白ハエスバツハ氏試

驗管ニテ僅ニ沈澱チ生ズ、尿沈澱物ヲ鏡檢スルニ膿球多數ニシ

テ又膀胱上皮モ見ユ。

培養所見 五月二十四日即チ注射前ニ採尿シ是ヲ培養スルニ菌聚落ハ圓形

ニシテ灰白色チ呈ス、菌聚落ハ十二箇ヲ作ル。更ニ染色スルニ

桿菌ヲ見ル。

經 過 他ノ藥物ヲ與ヘズ。五月二十四日第一回注射チナシ爾後隔日ニ

四回注射チナス、二回ノ注射ニヨリ自覺的症狀消失ス、五月三

十一日採尿シ培養スルニ菌聚落ヲ作ラズ、併シ尿ハ清澄ニシテ

鏡檢上異常ナシ。

注射回数 四回 全治ニ至ル日數 八日

メズ、(エスバツハ氏試薬ト「ウロトロピン」水溶液又ハ「ウロトロピン」ヲ含有スル尿ヲ混和スル時ハ黃白色ノ沈澱物ヲ生ズ、而シテ此沈澱物ハ鏡檢スルコトニヨリ蛋白ト區別スルコトヲ得。)且糖及ビ「インヂカン」反應ハ凡テ陰性ナリ。

以上ヲ表示セバ次ノ如シ。

姓 名	年 齡	職 業	產 婦	營 養	放 尿 回 數	疼 痛	注 射 前 檢 尿 所 見		培 養 所 見	注 射 初 日 自 覺 的 症 狀 消 退 スル 日 數	注 射 回 數 日 數	培 養 菌 聚 落 消 退 スル 日 數	全 治 日 數	射 回 數	
							反 應	尿 色							
森 ○ケ ○二七	農	未 可 良 三 十 分 每	放 尿 後	中 性	淡 黃 微 量	—	—	—	一 弱 シ	膿 球 多 數	桿 菌	四	二	八	四
田 ○春 ○四 ○	商	未 中 等 三 十 分 每	放 尿 時 弱 酸 性	黃 酸 性	黃 微 量	—	—	—	一 強 シ	膿 球 多 數 皮 ア リ	桿 菌、白 色、黃 色、球 菌	四	二	一 三	六
小 ○ヨ ○エ 二 九	無	未 可 良 二 時 間 每	放 尿 後	酸 性	黃 ナ シ	—	—	—	一 弱 シ	膿 球 多 數 皮 ア リ	桿 菌、白 色、黃 色、球 菌	三	二	七	四
大 ○マ ○ノ 二 一	無	未 中 等 三 十 分 每	放 尿 後	酸 性	黃 褐 微 量	—	—	—	一 強 シ	膿 球 多 數 皮 ア リ	桿 菌、白 色、黃 色、球 菌	七	三	九	四
青 ○ト ○千 二 七	官 吏 妻	未 經 中 等 一 時 間 每	放 尿 時 弱 酸 性	黃 酸 性	黃 微 量	—	—	—	一 強 シ	膿 球 多 數 皮 ア リ	桿 菌、白 色、黃 色、球 菌	三	二	一 二	五

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

大原、秋本—婦人尿道膀胱炎患者ニ對スル「ウロトロピン」濃厚液靜脈内注射ノ臨牀的價値ニ就テ

三九六

結 論

- 一、「ウロトロピン」濃厚液即チ「ウロネシン」ノ靜脈内注射ハ動物實驗並臨牀實驗ニ徴シ顧慮スベキ副作用ナシ。
- 二、婦人膀胱炎患者ニ對シ「ウロネシン」一乃至三回ノ注射ニ依リソノ自覺的症狀多クハ消失ス。
全治機轉ヲ見ルニハ尙ホ數回ノ注射ヲ要ス。
- 三、婦人膀胱炎ノ原因異ルニヨリ「ウロネシン」ノ臨牀效果ニ多少ノ差違アルヲ免レズ。